

はじめに

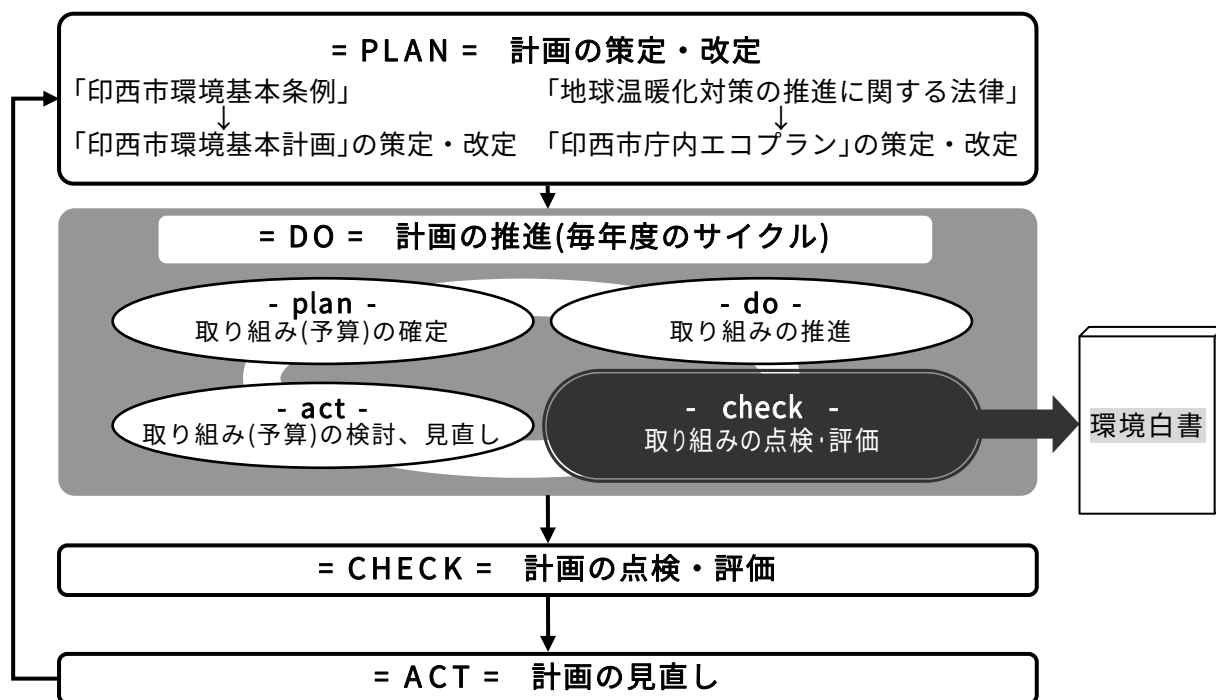
1 印西市環境白書作成の趣旨

印西市は、平成 25 年 3 月に印西市環境基本計画※を新たに策定しました。環境基本計画は、印西市環境基本条例※に基づき、将来のより良い環境づくりを目指すため、施策を総合的かつ計画的に進めるための計画です。また、平成 25 年度より第 3 次印西市庁内エコプラン※を進めています。庁内エコプランは、「地球温暖化対策の推進に関する法律※」に基づき、庁内における地球温暖化対策を効果的に進めるための計画です。

環境基本計画と庁内エコプランは、取り組みの進捗状況を年度ごとに点検・評価し、その結果を次の取り組みにフィードバックする plan・do・check・act を繰り返す仕組み（pdca サイクル）によって、進行管理を行います。

印西市環境白書は、環境基本計画と庁内エコプランの年度ごとの取り組み状況や目標の達成状況の報告書として、市民の皆様公表するものです。また、各種の測定データなどの市の環境に関する情報をとりまとめたデータ集として、広く周知するものです。

《 環境白書の位置づけ 》



本文中、※印の付いている用語の解説は、資料編 P.80 用語解説をご覧ください。

2 印西市環境基本計画

印西市は、みどり豊かな農地や樹林地が広がり、利根川や手賀沼・印旛沼などの多くの水辺環境に恵まれた自然豊かな側面と、千葉ニュータウンをはじめとした「街」としての機能を併せ持つ環境であることが特徴です。

市では、豊かな環境を将来にわたって守り育てていくため、平成 22 年 3 月の合併後の新たな印西市としての環境基本計画を平成 25 年 3 月に策定しました。

印西市を取り巻く環境の現状と課題をふまえ、印西市が目指す将来環境像を『「ひと まち 自然」が調和し 豊かで安心できる環境で暮らせるまち いんざい』と定め、これを実現するための 5 つの「基本目標」と具体的な取り組みに向けた 10 の「取り組み方針」を設定しました。これらの方針に基づき、環境保全と創造に向けた行動を展開していくほか、重点プロジェクトとして「地域で里山※を守り・育むしくみづくり」、「地域ぐるみによるごみ減量・リサイクル活動の展開」、「再生可能エネルギー※・省エネルギー化への推進」に取り組んでいきます。

本環境白書は、5 つの「基本目標」と具体的な取り組みに向けた 10 の「取り組み方針」に沿って記載します。

《 将来環境像と施策体系 》

将来環境像 ひと まち 自然」が調和し 豊かで安心できる環境で暮らせるまち いんざい	基本目標 1 【自然環境】	緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して 取 り 組 み 方 針 (1) 緑や水辺を守り育てよう (2) 生きものと共存しよう
	基本目標 2 【生活環境】	安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して 取 り 組 み 方 針 (1) 生活環境に不安がないまちを目指そう (2) 有害物質の排出・侵入を防ごう
	基本目標 3 【都市環境】	都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して 取 り 組 み 方 針 (1) 快適で住みよいまちにしよう (2) 歴史・文化が感じられるまちにしよう
	基本目標 4 【地球環境】	低炭素社会の構築に向けた、地球環境に負荷を与えないまちを目指して 取 り 組 み 方 針 (1) 地球にやさしいまちをつくろう (2) 資源循環型のライフスタイルを実践しよう
	基本目標 5 【大づくり】	環境配慮行動の実践者を拡大し、みんなで環境を育てるまちを目指して 取 り 組 み 方 針 (1) 環境を考え行動する人を育てよう (2) 環境配慮行動の実践を促すしくみをつくろう

3 環境指標の達成状況

環境基本計画では、将来環境像の実現と目標の達成を目指すために、施策の進捗状況を計る「環境指標」を設定しています。

10 の取り組み方針ごとに環境指標が設定されており、計画の目標値や基準年度との比較により、継続的に点検・評価を行っています。

平成 26 年度版の環境白書では、平成 25 年度の実績値をとりまとめ、基準年度（平成 23 年度）の数値と中間目標年度である平成 27 年度の目標と比較し評価を行いました。

《 環境指標の評価の見方 》

評 価	評 価 内 容
	目標値を達成することができました。
	基準年度と比較して、目標値に近づいています。
	基準年度と比較して、変化がありません。
	目標値を達成することができませんでした。基準年度と比較しても目標値に近づいていません。
—	現状値の把握をしていません。

■ 環境指標（基本目標 1 - (1) ~ 2 (1)）

基本目標	取組方針	環境指標	基準年度 (H23 年度現状)	H25 年度実績	目標 (H27 年度)	評価
1 自然環境	(1)	里山保全活動団体数	11 団体	11 団体	現状以上	
		農振農用地※面積	3,100 ha	3,109 ha	現状以上	
		遊休農地※面積	465 ha	461 ha	現状以下	
		認定農業者数	46 経営体	51 経営体	現状以上	
		市民農園区画数 (民間を含む)	476 区画	492 区画	現状以上	
	(2)	生きものの生息・生育種数	植物 803 種 動物 539 種	—	現状維持	—
2 生活環境	(1)	二酸化窒素(NO ₂) ※濃度	0.032 ppm※	0.031 ppm	千葉県環境目標値(0.04 ppm)以下を維持	
		浮遊粒子状物質(SPM) ※濃度	0.064 mg/m ³	0.061 mg/m ³	環境基準※(0.10mg/m ³)以下を維持	
		亀成川の BOD※濃度	1.5 mg/L	2.2 mg/L	環境基準(3 mg/L)以下を維持	
		神崎川の BOD 濃度	1.4 mg/L	1.0 mg/L	環境基準(2 mg/L)以下を維持	
		師戸川の BOD 濃度	4.9 mg/L	7.2 mg/L	環境基準(3 mg/L)以下を維持	
		下水道普及率※	80.3 %	80.9 %	80.7 %	
		下水道整備率※	82.4 %	87.3 %	92.7 %	
		合併処理浄化槽※普及率	77.0 %	79.9 %	83.0 %	
		合併処理浄化槽設置基数(補助対象分累計)	2,830 基	3,074 基	3,206 基	
		土壌の汚染に係る環境基準	調査地点全項目(28 項目)基準を達成	調査地点 3 地点のうち 2 地点達成	全地点・全項目の基準達成を維持	
		地下水の水質汚濁に係る環境基準	調査地点全項目(29 項目)基準を達成	調査地点 5 地点のうち 2 地点達成	全地点・全項目の基準達成を維持	
		道路交通騒音測定値	全調査地点で環境基準以下を達成	調査地点 5 地点のうち 4 地点達成	全調査地点で環境基準以下を維持	

備考) 1- (2)「生きものの生息・生育種数」については、平成 25 年度は調査を実施していません。自然環境調査は 5 年に 1 回程度実施することとし、定期的に現状を把握しています。

■ 環境指標（基本目標 2 (2)～3 (2)）

基本目標	取組方針	環境指標	基準年度 (H23 年度現状)	H25 年度実績	目標 (H27 年度)	評価
2 生活環境	(2)	ダイオキシン類※ 大気環境濃度	印西市役所 0.058 pg-TEQ/m ³ 印西高花測定局 0.040 pg-TEQ/m ³	印西市役所 0.039 pg-TEQ/m ³ 印西高花測定局 0.032 pg-TEQ/m ³ 印旛公民館 0.030 pg-TEQ/m ³	0.6 pg-TEQ/m ³ 以下 を維持 (環境基準)	
		印西クリーンセンター 煙突出口におけるダイ オキシン類測定値	1 号炉 0.11 ng-TEQ/Nm ³ 2 号炉 0.035 ng-TEQ/Nm ³	1 号炉 0.026 ng-TEQ/Nm ³ 2 号炉 0.044 ng-TEQ/Nm ³	1 ng-TEQ/Nm ³ 以下を 維持 (排出基準)	
			3 号炉 0.017 ng-TEQ/Nm ³	3 号炉 0.012 ng-TEQ/Nm ³	0.5 ng-TEQ/Nm ³ 以下 を維持 (排出基準)	
3 都市環境	(1)	不法投棄件数 (うち市民からの通報 件数)	498 件 (89 件)	322 件 (68 件)	137 件 (54 件)	
		ゴミゼロ運動※参加団 体数	218 団体	193 団体	233 団体	
		クリーン印西推進運動※ 参加団体数	165 団体	165 団体	180 団体	
		市民 1 人あたりの都市 公園面積	15.53 m ²	16.04 m ²	現状以上	
		市民と協働で管理して いる公園数	16 箇所	21 箇所	28 箇所	
		緑地面積の割合	55.3 %	54.9 %	55.4 %	
	(2)	指定文化財件数	47 件	48 件	50 件	
		歴史民俗資料館への 来館者数	885 人	1,133 人	2,050 人	
		市史刊行物の発行数	48 冊	51 冊	50 冊	
		市史講座の受講者数	70 人	34 人	80 人	

備考) 2- (2) 「印西クリーンセンターの煙突出口におけるダイオキシン類測定値」は、印西地区環境整備事業組合の提供資料によります。なお、3 号炉については「印西クリーンセンターの操業及び公害防止に関する協定書」により、排出ガスの基準が 0.5 ng-TEQ/Nm³ 以下と定められています。

■ 環境指標（基本目標４（１）～５（２））

基本目標	取組方針	環境指標	基準年度 (H23年度現状)	H25年度実績	目標(H27年度)	評価
4 地球環境	(1)	コミュニティバス利用者数	190,773 人	224,171 人	現状以上	
		市内駅の１日平均乗車人員	30,676 人 (H22)	25,519 人	現状以上	
		１人当たりの二酸化炭素※排出量	4.00 t-CO ₂ /年 (H22)	3.82 t-CO ₂ /年 (H24)	現状以下	
		太陽光発電システム設置件数 (補助対象分累計)	529 件	984 件	1,200 件	
		太陽熱利用温水器設置件数 (補助対象分累計)	34 件	41 件	80 件	
	(2)	１人１日当たりのごみ排出量	888 g	901 g	774 g	
		総資源化率※	21 %	21 %	26 %	
5 人づくり	(1)	環境講座・イベント等の開催回数	15 回	29 回	18 回	
	(2)	環境情報の提供回数	24 回	24 回	24 回を維持	
		環境活動団体数	29 団体	26 団体	30 団体	

備考) 4-(1)「１人当たりの二酸化炭素排出量」については、当該年度のデータを把握できないため、前年度のデータを報告しています。なお、排出量算出方法の詳細は資料編 P.77 に示すとおりです。

4 環境の現状と課題

■ 基本目標 1 緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

「基本目標 1」は、印西市の豊かな里山の緑や水辺を守り、自然環境を保全し共生していくための施策群で、環境指標は 6 項目を設定しています。平成 25 年度は、目標達成が 4 項目（66%）、基準年度から変化なしが 1 項目（16%）、調査未実施のため評価を繰り越した項目が 1 項目でした。

印西市域には、樹林地や農地、水辺などが複合する里山が多く残されており、市民アンケート調査でも自然環境に対する満足度が高いことがわかります。一方で、「昔はいた生きものが、最近は見られない」などといった自然環境の変化を懸念する意見も多くみられました。

今後は、自然環境調査等による現状把握を進めるとともに、緑や水辺とのふれあいの機会を充実し、自然環境保全の意識を高めることで、ひとの暮らしと自然が共生できる環境づくりを計画的に進める必要があります。

■ 基本目標 2 安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

「基本目標 2」は、安心・安全に暮らせる環境を守っていくための施策群で、環境指標は 15 項目を設定しています。平成 25 年度は、目標達成が 8 項目（53%）、目標に近づいているものが 3 項目（20%）、目標に近づいていないものが 4 項目（26%）でした。

安心・安全な環境を確保するために、市では定期的に大気質や水質等の監視・測定を行っています。特に、目標に近づいていない「師戸川の水質（BOD）」と「土壌の汚染」、「地下水の水質汚濁」については、今後も調査結果を注視していく必要があります。また、周辺市町や県との連携を図りながら、広報・ホームページ等を通じて、市民・事業者・市の情報の共有化にも取り組んでいきます。

■ 基本目標 3 都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

「基本目標 3」は、暮らしを豊かで快適な環境にするための施策群で、環境指標は 10 項目を設定しています。平成 25 年度は、目標達成が 2 項目（20%）、目標に近づいているものが 4 項目（40%）、基準年度から変化なしが 1 項目（10%）、目標に近づいていないものが 3 項目（30%）でした。

市街地の美化や緑化、まちの景観などは、生活に関わる身近な環境課題として特に関心が高い分野です。「快適なまち」の実現には、市だけでなく市民・事業者との協働が不可欠なため、協働活動の場や制度の充実などが求められています。

■ 基本目標 4 低炭素社会の構築に向けた、

地球環境に負荷を与えないまちを目指して

「基本目標 4」は、省エネ・省資源、ゴミの減量、再生可能エネルギーの普及などにより地球環境への負荷を減らすための施策群で、環境指標は 7 項目を設定しています。平成 25 年度は、目標達成が 2 項目（28%）、目標に近づいているものが 2 項目（28%）、基準年度から変化なしが 1 項目（14%）、目標に近づいていないものが 2 項目（28%）でした。

低炭素社会・循環型社会を実現するためには、地球環境への負荷の少ないライフスタイルへの変革が求められます。特に印西市では「1 人 1 日当たりのごみ排出量」が増加傾向にあり「ごみ問題」への取り組みを強化していく必要があります。

■ 基本目標 5 環境配慮行動の実践者を拡大し、

みんなで環境を育てるまちを目指して

「基本目標 5」は、環境保全への意識を高め、環境に配慮し行動できる人を育成するための施策群で、環境指標は 3 項目を設定しています。平成 25 年度は、目標達成が 2 項目（67%）、目標に近づいていないものが 1 項目（33%）でした。

市では、環境美化活動や環境学習会、その他各種イベントなど、市民が参加・学習する機会の提供に努めてきました。今後も、環境行動指針の普及啓発などを通じて、環境配慮行動の定着を図っていきます。

■ 平成 25 年度のまとめ

平成 25 年度における環境指標全 41 項目の状況は、平成 27 年度の目標を既に達成した項目が 18 項目（44%）、目標に近づいているものが 9 項目（22%）、基準年度から変化なしが 3 項目（7%）、目標に近づいていないものが 10 項目（24%）、調査未実施のため評価を繰り越した項目が 1 項目でした。

環境基準は概ね達成されており、遊休農地面積の減少や都市公園面積の増加など、全体として市の環境の状況は良好だった一方で、師戸川の BOD 濃度や 1 人 1 日当たりのごみ排出量の増加など、目標に近づいていない項目は今後も取り組みを推進する必要があります。

市民・事業者・市が協働し、みんなで環境問題の解決に取り組むことができるよう、普及啓発、取り組みの場や学習機会の提供に努めます。



5 環境審議会委員からの意見・提案

平成 26 年度版環境白書について、環境審議会委員から意見・提言がありました。

■ 基本目標 1 緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

- 農業の後継者不足対策として、就農希望者の育成に努められたい。また、幼稚園、小学生、中学生に農業体験や自然との共生について学ぶ機会の提供を検討されたい。
- 身近な自然環境を地域ぐるみで守るために、河川または山林の湧水周辺の除草、掃除を行政に頼らず、市民自ら実施するような方策を検討されたい。

■ 基本目標 2 安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

- 飲料水として地下水を使用している家庭も多いため、水質検査の方法や費用などの周知徹底を図られたい。
- 環境基準の超過が続いている師戸川の水質について、印旛沼の水質保全のためにも水質悪化の原因を解明し、その対策を検討されたい。

■ 基本目標 3 都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

- まちの美化については、道路または河川の雑草が刈り除かれずごみ捨て場となっている場合があり、定期的な除草等に努められたい。
- 市内の環境美化について、何でも市に任せるのではなく市民自ら美化活動を行うように市から市民へ提案・募集する方策を検討されたい。

■ 基本目標 4 低炭素社会の構築に向けた、

地球環境に負荷を与えないまちを目指して

- 旧地域まで小型のコミュニティバスを通して、自家用車の使用を減らす方策を検討されたい。
- 市では家庭用の太陽光発電システムの補助を行っているが、電気事業者の接続回答保留問題などもあり、再生可能エネルギーに関する動向に今後も注視されたい。

■ 基本目標 5 環境配慮行動の実践者を拡大し、

みんなで環境を育てるまちを目指して

- 環境教育・環境学習や人づくりに関して、他自治体での取組みで参考にできることがあれば取り入れ、更なる取組みを推進されたい。
- みんなで環境を守り育てる意識を持ち、毎日ゴミゼロの意識をもって行動するなど、引き続き、市民・事業者・市で協働し環境配慮行動の推進に努められたい。

6 環境推進市民会議委員からの意見・提案

平成 26 年度版環境白書について、環境推進市民会議委員から意見・提案がありました。

■ 基本目標 1 緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

- 自然にやさしい有機栽培や低農薬の農産物、地産地消の商品を購入するように努力できるよう、市民へのアピールに努められたい。
- 竹林整備の支援、耕作放棄地の再生・活用を通じて緑地保全に努められたい。
- 人も生きものも自然から恩恵を受け、共生できるよう、外来生物対策等により生物多様性に配慮した環境づくりに努められたい。また、印旛沼周辺について、生物多様性に配慮した環境整備に努められたい。

■ 基本目標 2 安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

- 公園や市道の樹木を消毒する際には必要最低限の薬剤に留めるよう努めるとともに、放射線に関する情報の発信に今後も努められたい。
- 水質保全のため、下水道の整備を進めるとともに、市街化調整区域での宅地開発の抑制に努められたい。

■ 基本目標 3 都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

- 歴史・文化・自然を大切にし、調和のとれた開発を進め、若者が郷土愛を持つことができるまちづくりに努められたい。
- 不法投棄・ポイ捨て防止のため、更なる対策強化及び意識啓発に努められたい。

■ 基本目標 4 低炭素社会の構築に向けた、

地球環境に負荷を与えないまちを目指して

- 地球温暖化対策を推進し、市民向けの学習会の開催や、環境省の気候変動キャンペーンの合言葉「Fun to Share[※]」の普及に努められたい。
- 家庭でできる取り組みとして、ゴミの分別、地産地消、環境家計簿、省エネ対策などを広く市民へ啓発するよう努められたい。

■ 基本目標 5 環境配慮行動の実践者を拡大し、

みんなで環境を育てるまちを目指して

- 町内会単位から横のつながりを持ち、地域の環境や不法投棄など目配りができるような方策を検討されたい。また、環境保全に関する市民団体等の活動を広く知り、相互のネットワークづくりができるよう努められたい。
- 次世代を担う子ども達への環境教育を充実されたい。
- 環境基本計画、環境白書、環境行動指針等をより多くの市民の方々が理解し、行動できるような方策を検討されたい。